

# 天敵保護装置「バンカーシート®」を利用した害虫防除技術の開発

## 背景と課題

ナスの施設栽培では、ミナミキイロアザミウマとチャノホコリダニが育苗中から発生する。しかし、育苗中は過度な化学農薬の使用が困難であるため、新たな害虫防除システムが求められている。

## 研究の目的

本研究は、ナスの育苗中に天敵資材スワルスキーカブリダニをバンカーシート®を利用して放飼し、ミナミキイロアザミウマとチャノホコリダニを効果的に防除することを目的とする。

## 研究の内容および成果

- ・天敵維持装置「バンカーシート®」を使って、苗にスワルスキーカブリダニを放飼し(図1、4)、定着させる(図2: I)。
- ・その結果、化学農薬の使用を最小限に控えても、ミナミキイロアザミウマの発生を抑えた苗(図2: II)が生産でき、本圃に定植後も初期発生を抑えられる(図2: III)。
- ・また、チャノホコリダニに対しても定植後設置よりも高い効果がある(図3)。



図1 苗に設置したバンカーシート®

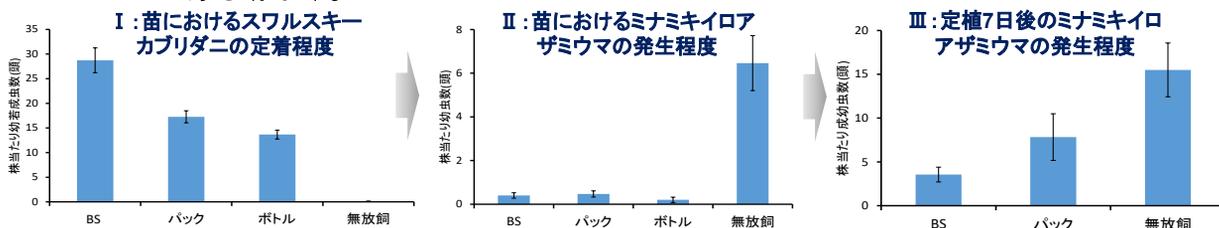


図2 バンカーシート®利用によるスワルスキーカブリダニの定着とミナミキイロアザミウマの発生程度

注1)「BS」は、バンカーシート内に吸水性ポリマーを投入し、9日後にパック剤を装着。その後苗に設置。  
注2)「BS」と「パック」は、9月3日に1資材/12株を設置、「ボトル」は同量を葉上に放飼。

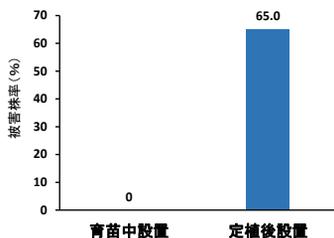


図3 バンカーシート®の育苗中設置によるチャノホコリダニ被害の抑制効果



図4 育苗用施設内での設置の様子

(研究期間：平成26年～28年；農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業、26070C)

## 生産者のみなさまへ

本研究で得られた成果により、育苗中においても化学農薬に頼らずに、ミナミキイロアザミウマとチャノホコリダニの効果的な防除が可能となります。